瓜生氏

日本國盡

五畿内

一

瓜生氏國畫

[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
各方[illegible]盛[illegible]
[illegible]
小[illegible]の数[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今[illegible]

ふ〻て我を後ふ〻いたゝ初まる業
のゝ〻ふ〻へ〻ず是聖人民を教ゆる
所法なり是之あるを学ぶ人官
を文部ふ厚ふ〻て専ら学制を儀
定し小学校を設ひ之を生徒
きるふ思ひ〻さて由ゝく有志の人
を勧め毎ふ必ず雑を費して何
卒拙社必を古ふ用ひて別業実地

社文を兼ね思て切り切りお勧
免人集もまたふ務の余暇を求め
麻会の時を経ふ〻力めて業を
起し一業を成ふ過ふ心配ふ
たゝ〻ふ為ふ世ふ益ふへきものん
之あるをん之ふ由ゝ今之福の学
校布の皇国地理略ふ〻て文を求
とし為ふ人ふ地名像拙

たるといへる新を見て人名をもつて日本人名國
の地理概略書を記し一冊にして題
して各方の清興をひらくべき一種
社交ふれと共に新板未所(ナリ)出板
いたし諸者方へ出ほとせし又
を清書びたるを我が国の地理
を詳信ん〜之あるまほしく次年稿
深氏が世界國盡を清書びたるを

つぐ我を淡ふ〜彼を出ふるを
社誤えあく全世界地理乃概
略を知るを於て要略是をもて
しべくは此書乃要よく深分別
之あるたるべし

広告の案内

各方へ

瓜生氏日本國盡卷一

總論

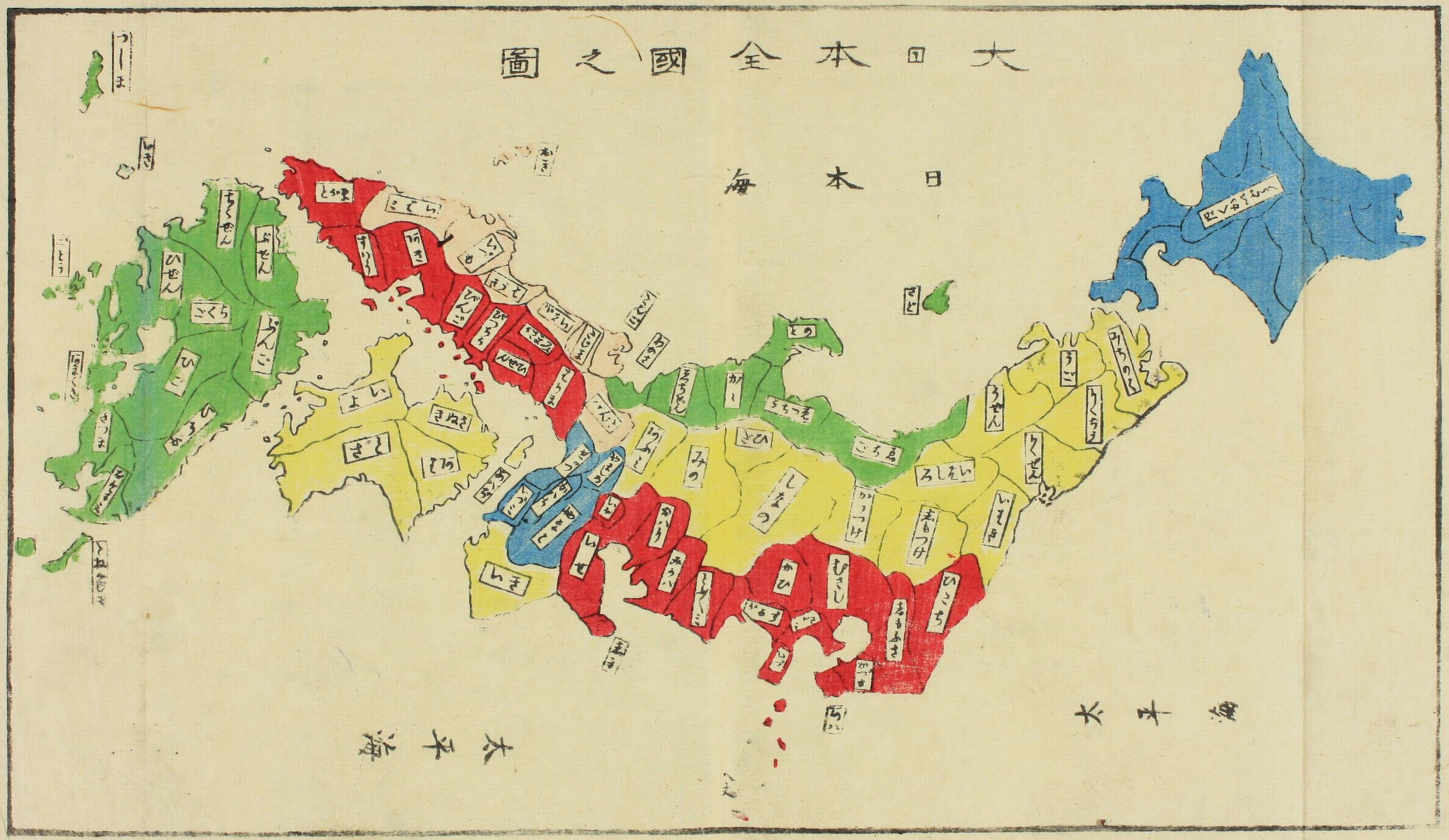
凡世界地面上にある物は
地中に埋まるもの
地面の上

ふるまひ。地面乃至代
ゝ。ぶらぶらのそ。言を聚ること
数。夫地の形如圓く
して。恰ど極の実のごとく之
を圓く地体を名付て
地球と申す。其球の実

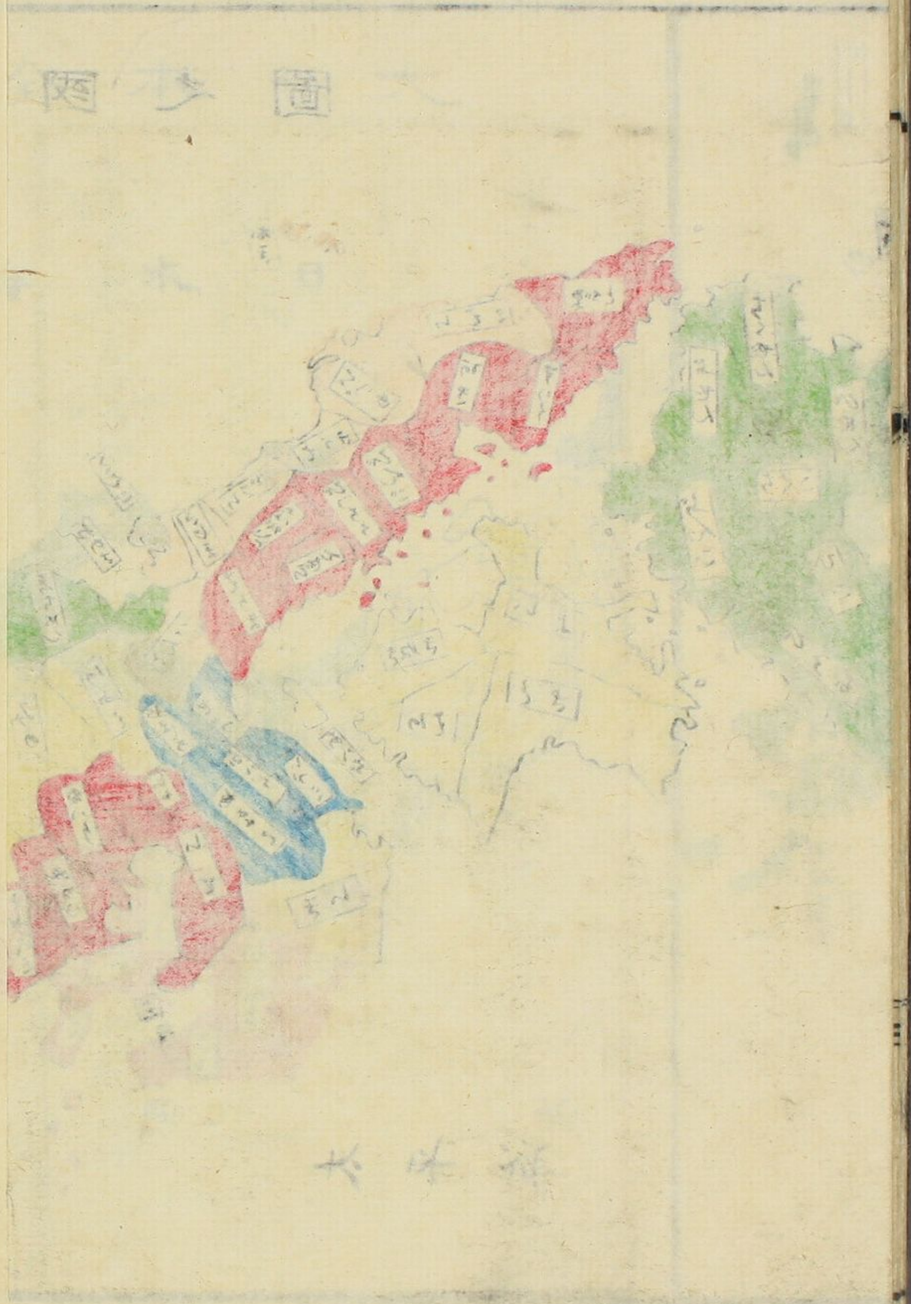
乃形。頭ふ窪あり。その頭
面より高低。之を地球と
称す。窪より南極北極を
て。北と南の端なり。其頭面
の高低の。高地窪山陸
低き所海と河の水陸より水

よわよわしく。大日本のこゝろ。一
日本國〻數知れぬ。米のごとく
ゝ立ちあつまる。世國〻を一集
し。拾を五つに區別して。
亜細亜。亞弗利加。歐羅巴。南
北亞墨利加。大洋洲。名まえ

大日本全國之圖


日本海
太平洋
東海道
東山道
北陸道
山陰道
山陽道
南海道
西海道
蝦夷地
つしま
いき
とさ
ちくぜん
ぶぜん
ひぜん
ごくち
ぶんご
ひご
ひゅうが
さつま
とかま
すはう
あき
ながと
さど
ぶんご
ひぜん
ちくご
ちくぜん
ぶぜん
ぶんご
ぶんご
ぶんご

五大洲とて。其てを知んゑ
ゑを生んで生きたる本國乃。
命が日々に本を習ふて。
世界を廣く萬國を多き
中にも悍まて。其名を知
る日の本に。亜細亜の中に



東隅奈平海の西に位す。
立てる一帝國。四方海ふかく
山圍し。西方新羅滿ありて
日本海を隔て。北方蝦西
西と接し。國内一体と為
て。西軍を利水洲を移を

引き。中ふ次ふて未を角し。
古地の象くの字形幅狹
くして隘。長く。一里四方て較
ふ廣ぶ。其坪二萬三千と。二百
八十八余ふく。其人口の大凡い。
三千二百八十萬。氣候溫和

地味ゝ肥え五穀財産豊
かで人の手智も他に優れ
学校乃數年ふ博し開化
に日々に進み陸ふ
続乃作産樹水ふ蒸気
火輪船東洋一の國なり。

倭七國の總称大八嶋又
豐葦原乃水穂國とも言
へり一の。
神武天皇ふ東へ長く大和
乃都を定め國を「ヤマト」
ゝ名づけ又「ヒノモト」とも呼へ

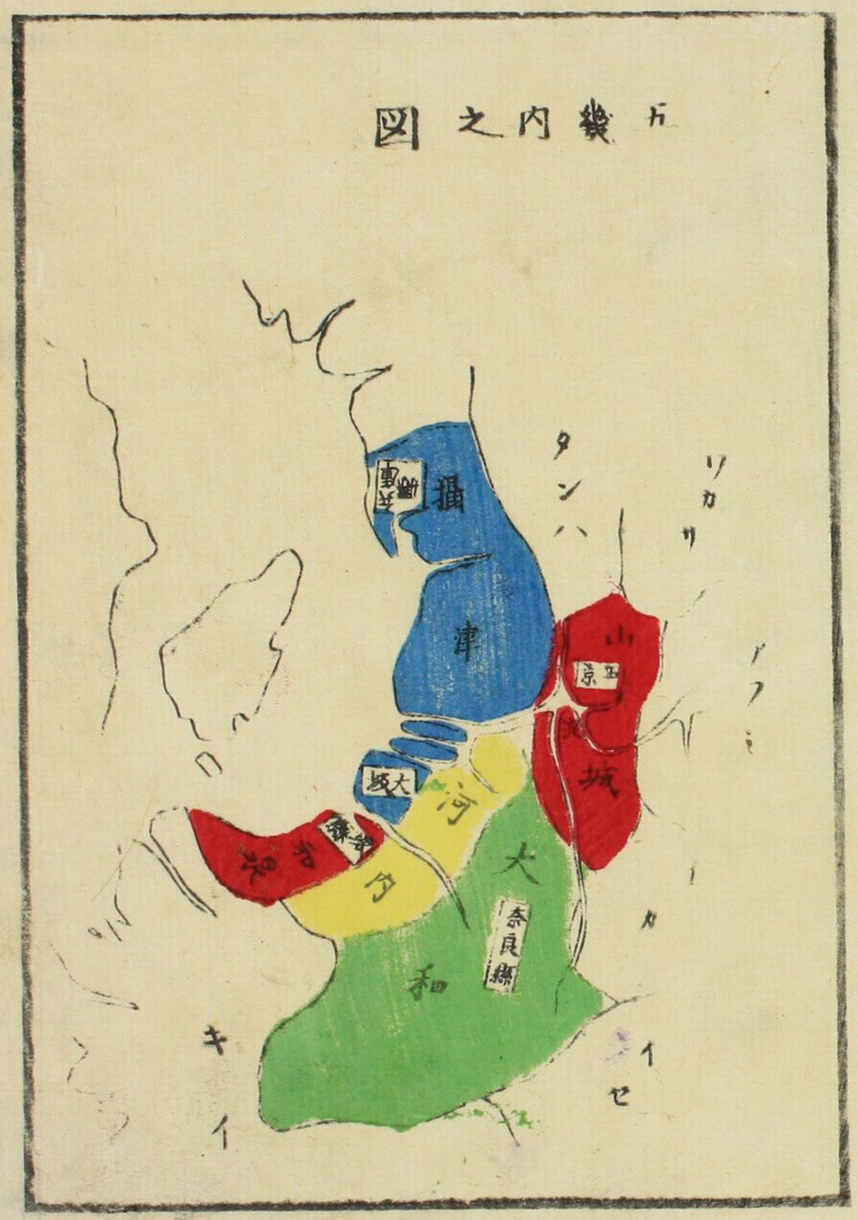
より梁傳國より日本の文字を用ひて音を傳へ。古来六十八物ありて五畿七道に二百四十五郡ありと。新羅百濟の人八十

穴らしまを奉て

今上帝。睦仁天王風華を。武藏の江戸ホ頼朝の起し。拙を東京と改めて。皇居を白鳥丸。宇内美操の改文政昔ホ立復り。藩治乃田

弊跡そなぶ。全國こゝ有り
七十二の邦を置きて都
鄙遠近王化を仰ぎ奉る
なり。夷類あまた御世ふ
そなはるまゝ
畿内五國

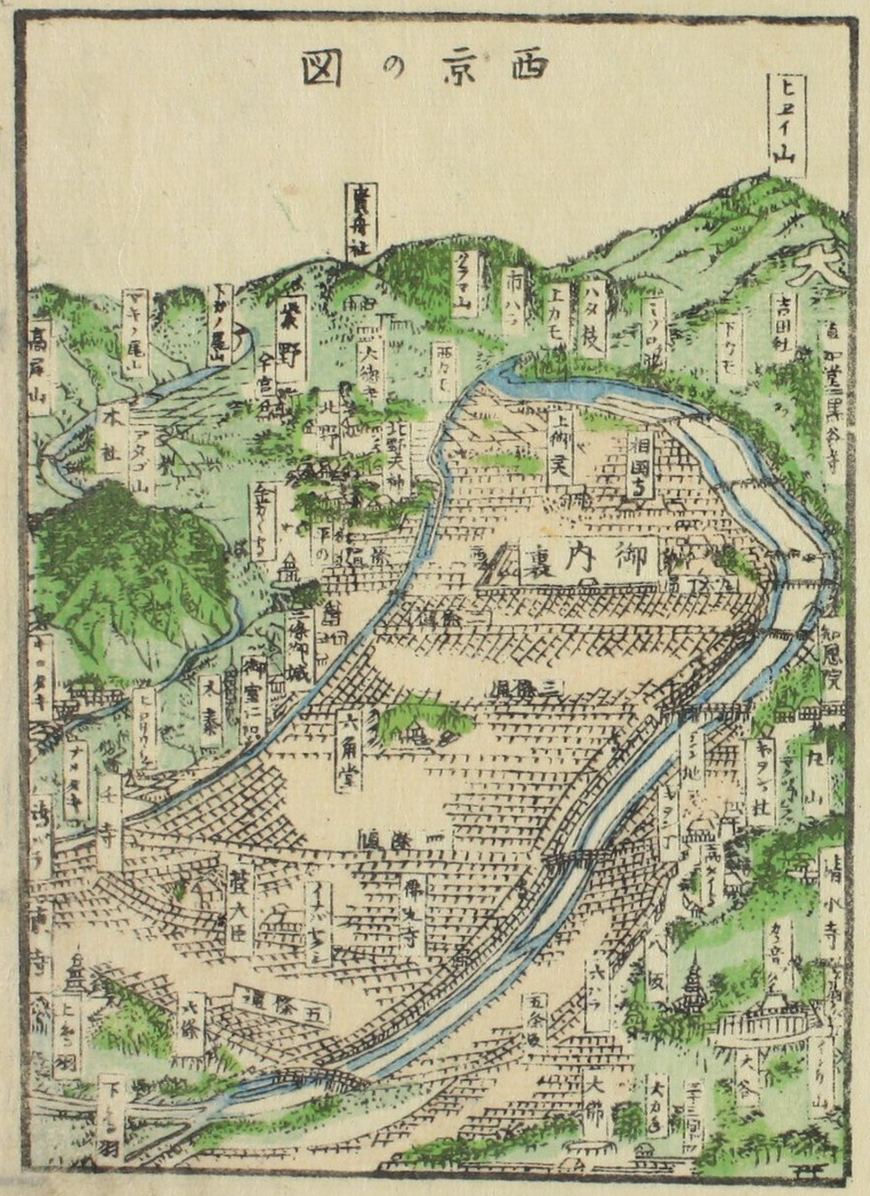
五畿内之図

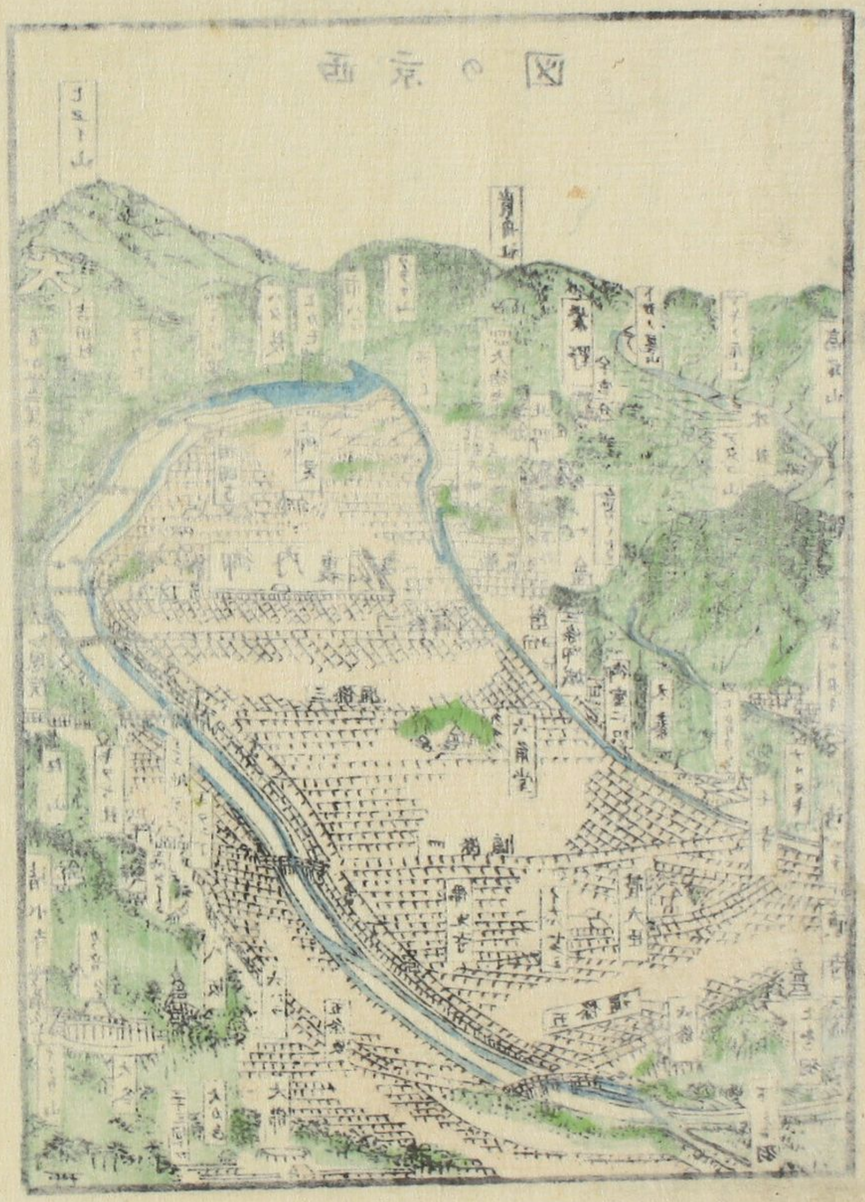


さて山城乃。京を殘らず二所を
海。餘のこと者い陸地なり。
不二城名ぞ。三方山
さて西國し海を一國の其
一ツ。南さて俄く水國さて。中
おの地の如京。昔桓武弐

帝より。ゆきて。王都
ゆえ。今尚之を京都府。
中にて府を置く。
里。大道基経の目乃ごと。
九陳。ちまたの。小路五百
美ぶ。人口二十七万余。

西京の図





是を府西の人数とす。凡も
山城一国は。四十六万九千余。四
時の景色自ら常ふ正
しく行はれ。其風俗都
ばく。国番ひも素朴なる。是
ハ名高き山なり。東山より

宮の。愛宕山。高雄小倉山。
嵯峨の。桂の川。鴨宇治大堰
木津川の。流聚て淀
へる。淀の。錦小路布。鴨
川。西京。伏見。桃山。
清水陶器。宇治の茶。是ぞ

此地の産物。京都府
廳。管轄。摂津。山城。一国之ホ
又。摂津の内。乃三郡ぞ。
二ホ大和。十五郡。
国のそば。二ツ。今より二千
五百又。二十年。年のそば。昔。

神武天皇元年庚寅より累累
世の皇都の古地を尋ぬるに山
陵ばかり數ばかりぞ殘りける
古をとふ地ふる色なる
平地なり。和銅三年より起
ぬ。天應延曆の比までに七十余

年の皇居。皇居のあるを
都ゆゑなる南都と名を
稱へ大和一國笑殺の古跡
形ばかりあり。當國中
の人口ぞ。二十の年七百人。
國の廣さ二百五十四里より

南ゟ北へ流るる三十里。四方の峯候山惣ぶ。
寒暑とも温和ふく。
其風俗おのづから
米き所あるも。此國東南
山深く峯を重ぬる勢

明石山。櫛の名所。海内一西ふる
葛城金剛山。小ふる初瀬。
吉野山。門い芳野。大和川。
手巻のよ平田。ぶ。お物
今り當麻ふる。国を敷ふる
ぞのお産物いふ

西は吉野郡に連なる漆ふ池郷墨見
まで名を得て健男なる
三ツ河内とし山國海
なり國の北は三つ東南
は大和の國紀伊の國とふ
界して山に囲めと其中

たき猪地形り
西は淀川流を東て摂津
と界を南は高槻池沼小田
と多くて泥土の流まこと
書い墨筆ふ巻い根毋陸
東の舟乃絶間なく京よ

摂津の大坂へ通ず摂津
堺より伊勢へ求めぬ者なし
伊勢國の生ま市を大和川
流れを通りて諸の小川筋の
み西乃方摂津の海へ流れ
行くを稍狭山とく農

國ふ潦ぐ大池あり昔宗
神帝の時地より水の湧き
を夏ひ玉ふ堀とりや。
本郡池の始なり國中廿一
万と四千九百の人口にて東西
五里ゆ南北ゆ十里ゆ

四里ばかりの中に上下男女ともに都
なべて風俗素朴にして柔らこの
ゆ。気候も暖和にして少し
とそ其産物は石英高
き。河内木綿小倉刀
和泉四郡は南の山

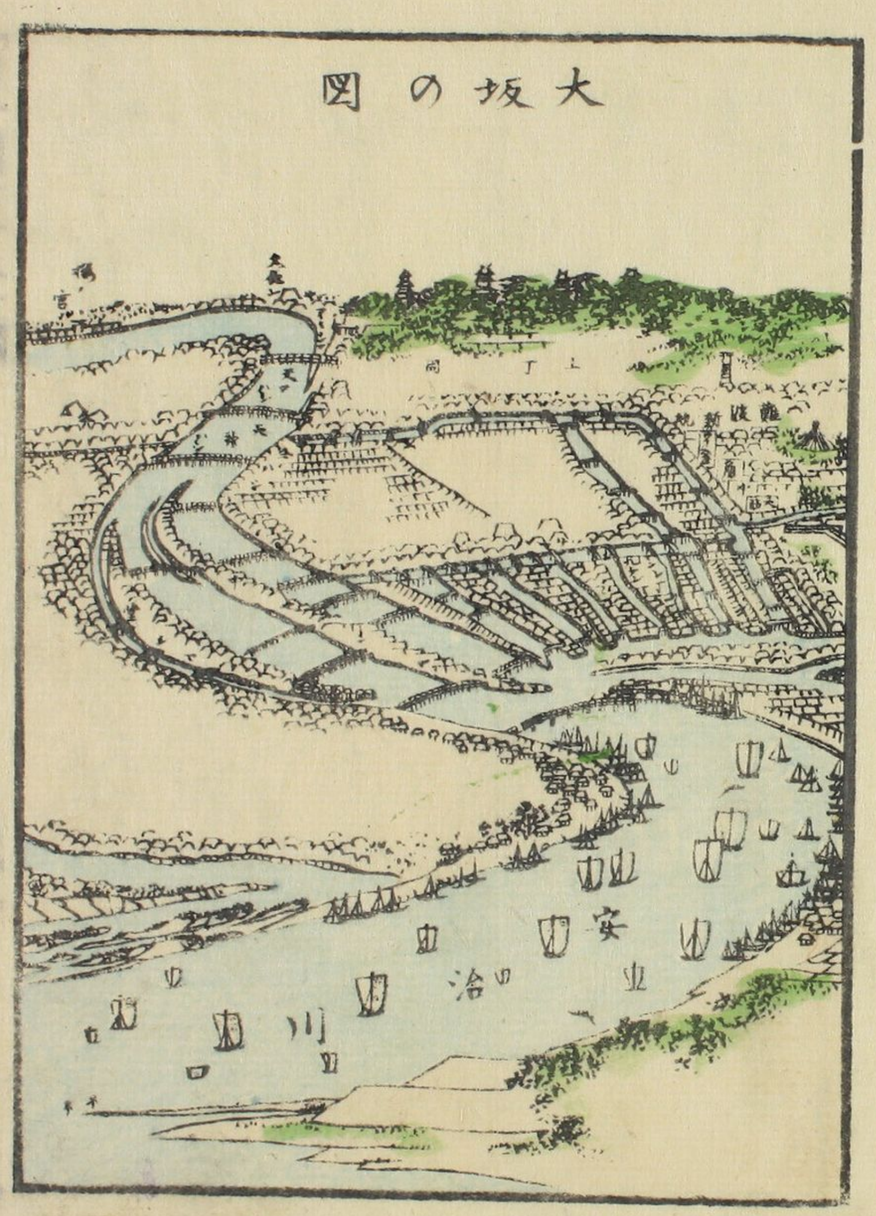
並び列なる海水
ち於ては國中平原大多
平原北の極まる堺
いる港なり紀伊の東北
堺ふく路の東の三國乃
境目なるあり此の小東

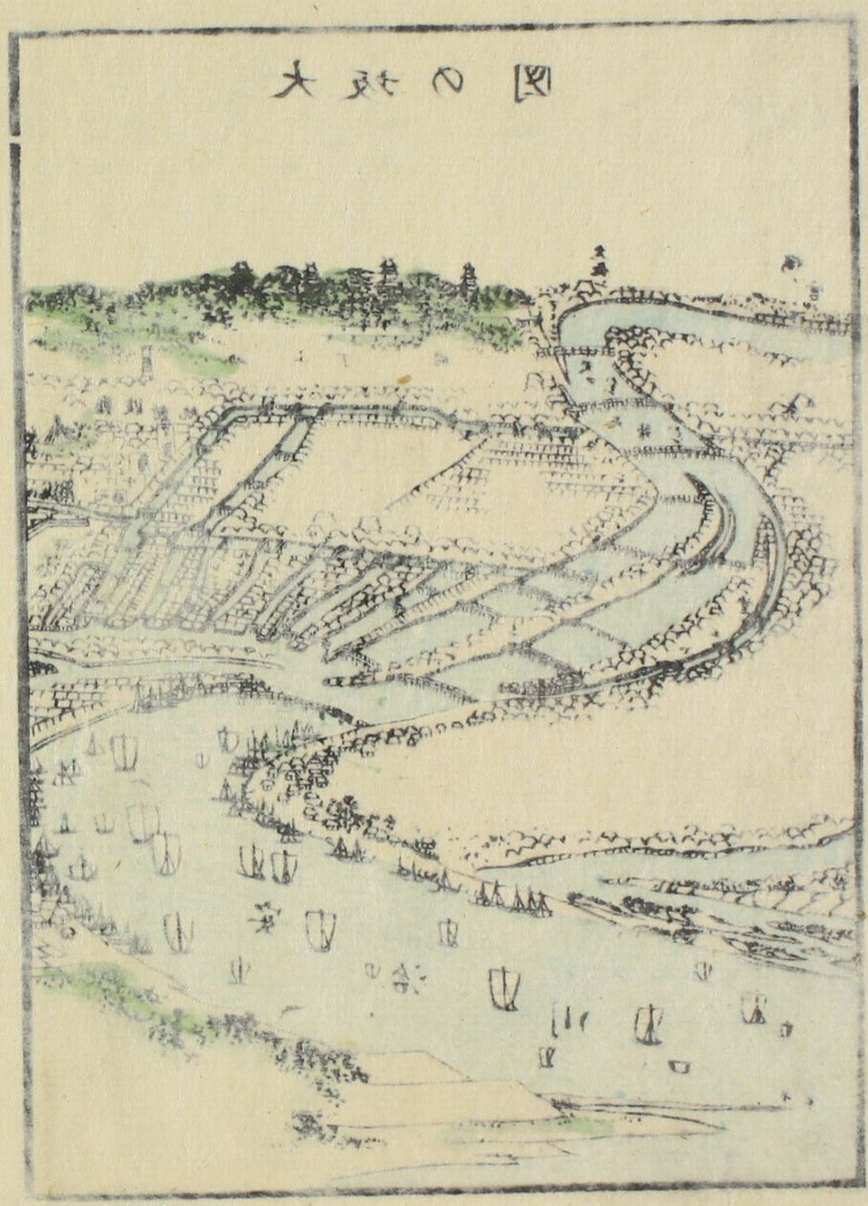
河内は北は摂津南は乃ち和泉
なり東は堺縣に接し
廳を立て置て河の内二郡
を全管して一國人口二十万
國の東西五里計南北
は十二里余家倍を河内

人の風俗実に
義を尊ぶ。生産物は酒
と鯛。
第五攝津は畿の乾城
大和河内を帶び淡路の水
土を流し南は海に臨む

山城の淀の渡の津。
実に宇内乃咽喉也。
出船入船甍を輪奏
毎歩の大港。玉冠を
大坂府東西二京より立
並び。合もて三箇の都と

大坂の図

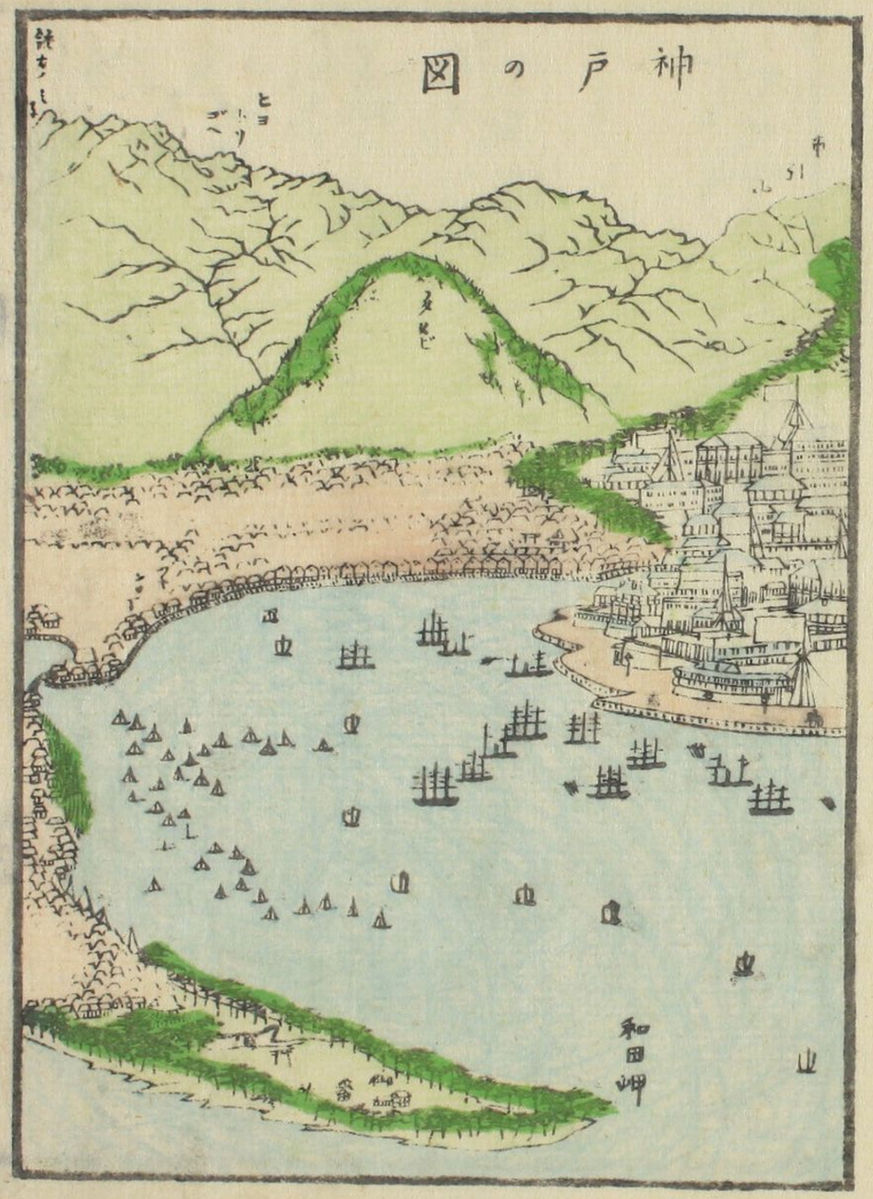




稱し。富貴の高下數
を。高貴貧賤を
。通高次第を。居
間の吳人。猶多く造幣
寮ふ。金銀の圓き代貨
幣を鑄造し。兵學寮ふい

数千の陸兵枝を猟を練る。其文府庫の管轄なり。當國内に七郡あり。郡ごとに西の方。十里隔たる兵庫にて其船庫乃管轄なり。兵庫より断の猟き

神戸の図



たり。神戸と云ふる一港
え。近来交易繁華の地
居留外人多く賑しく
極めて繁昌せり此一國の
人口凡そ七十八万九千人余。土
地外廣く東西南北

南ふくし十五里まくに。四時の雲暑も暖おほく。五穀豊生ずる善き土地なれども。人の業質に虚偽多くして。上下とも欺ふの癖あり。猪名所

兵庫の西に有馬山。温泉あり。麝香の山。布引の瀧。水の色白き事。玉の如し。武庫山神。峰山。儀明剛。松風須磨。名所の浦。又名所の

君しるや天の美禄の伊丹
酒礎堅き御影石天王
寺甚菁池面炭高き

瓜生氏日本國畫巻一終